

**寄贈図書リスト**

誰でも使える天体望遠鏡, 浅田英夫, A5判, 144頁,  
1,800+税, 地人書館

世界を知る 101冊, 海部宣男, 四六判, 264頁, 2,000  
円+税, 岩波書店

**月報だより**

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお, 原稿も必ず Faxで 0422-31-5487 までお送りください。

**研究助成****平成23年度(第52回)東レ科学技术賞・研究助成の候補者推薦のお願い**

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。

- I. 東レ科学技术賞(概要)
    1. 候補者の対象……天文学に関する分野で, 下記に該当するもの
      - (1) 学術上の業績が顕著なもの
      - (2) 学術上重要な発見をしたもの
      - (3) 重要な発明をして, その効果が大きいもの
      - (4) 技術上重要な問題を解決して, 技術の進歩に大きく貢献したもの
    2. 科学技术賞……1件につき, 賞状, 金メダルおよび賞金500万円, 2件前後
    3. 候補者推薦件数……天文学会から2件以内
  - II. 東レ科学技術研究助成(概要)
    1. 候補者の対象……天文学に関する分野で, 国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽の基礎研究に従事し, 今後の研究の成果が科学技術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45歳以下)
    2. 研究助成……総額1億3千万円, 1件3千万円程度まで10件程度
    3. 候補者推薦件数……天文学会から2件以内
- ※I, IIとも締切期日は平成23年9月9日(金)日本天文学会必着

※推薦書用紙は日本天文学会事務所まで

※各推薦書用紙は, ホームページからもダウンロードできます(平成23年6月中頃から可)。

URL: <http://www.toray.co.jp/tsf/index.htm>

**会務案内****【2011年度秋季通常総会開催のお知らせ】**

正会員各位

社団法人 日本天文学会 理事長 岡村定矩  
一綴じ込みの返信用葉書で9月13日(火)までに到着  
するようご投票を!—

下記のとおり2011年度秋季通常総会を開催いたしますので, ご出席くださるようご案内申し上げます。総会は本会の最高決定機関で, 総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席される場合には, 下記の議案をよくお読みのうえ, 次の(1)または(2)のどちらかの対応をください。いずれの場合も, 総会出席とみなされます。

- (1) 綴じ込みの総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。
- (2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。

「葉書」は, 9月13日(火)までに天文学会事務所に到着するように投函してください。「葉書」には切手を貼る必要はありません。

**○「投票および委任状の書き方」**

総会に出席できない正会員は, 綴じ込みの総会返信用「葉書」で議案に対する賛否の意志表示をするか, 委任状を提出してください。(委任状にはとくに指定の用紙はありません。)

賛否の意志表示をされる方は, それぞれの議案について「賛成」「反対」のいずれかを○で囲んでください。賛成・反対以外にご意見があれば, 所定の欄に記入し, 書ききれないときは別紙に書いて事務所宛にお送りください。

なお, 次の投票は無効となり, 出席会員数に数えま

せん。

- 1) 会員番号、住所（または勤務先）の両方を欠くもの。
- 2) 氏名を自署していないもの。
- 3) 投票権のない者からの投票（正会員以外の者）。
- 4) 二重投票。

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

- 1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- 2) 委任正会員の会員番号、住所（または勤務先）の両方を欠くもの。
- 3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- 4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- 5) 被委任正会員として、単に役職名の“理事長”または“議長”と書かれたもの。

#### ○2011年度秋季通常総会

日 時：2011年9月20日（火）

総会出席者確認：16:45～17:15

総会開始：17:15～

場 所：鹿児島大学共通教育棟1

注 意：総会出席確認作業の時間中に会場へ入場してください。確認された方には表決のときに必要な札をお渡しします。

#### ○議案と報告（本誌500頁から511頁まで参照）

議案：

- 第1号議案 2012年度事業計画書（案）の承認
- 第2号議案 2012年度収支予算書（案）の承認
- 第3号議案 第19期評議員選挙結果の承認

報告：

1. 日本学術会議報告
2. IAU 報告
3. 年会実行委員任期途中の交代
4. 公益法人への移行作業
  - ・新定款（案）
  - ・代議員選挙施行細則（案）
  - ・会長・理事選考施行細則（案）
5. その他

#### 【第1号議案】

（社）日本天文学会 2012年度（2012年1月1日～2012年12月31日）事業計画書（案）

1. 世界天文年の続き
  - 1) 全国同時七夕講演会の開催（4年目）を行う予定である。（定款第2章第5条8項に該当する事業）
  2. 出版物の刊行（定款第2章第5条2,3項に該当する事業）
    - 1) 欧文研究報告  
第64巻1号～第64巻6号，A4版，発行部数各1,400，年間1,500ページを予定する。
    - 2) 天文月報  
第105巻1号～第105巻12号，月刊B5版，発行部数各3,200，毎号64ページを予定する。
    - 3) 年会講演予稿集  
春・秋季年会の講演予稿集を計2冊，発行部数各850を予定する。
    - 4) ジュニアセッション予稿集  
春季年会時のジュニアセッション予稿集1冊，発行部数500を予定する。
    - 5) 公開講演会パンフレット  
春・秋季年会時の公開講演会の際に配付するパンフレット，各400部を予定する。
  3. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当する事業）  
天文学分野に関する研究活動の発表の場である年会を年に二回春と秋に開催する。
    - 1) 春季年会：2012年3月19日（月）～22日（木），龍谷大学（京都市伏見区，開催地理事：太田耕司）で行われる。  
ジュニアセッション，天文教育フォーラム，公開講演会も併せて開催する。
    - 2) 秋季年会：2012年9月19日（水）～21日（金），大分大学（大分県大分市，開催地理事：仲野誠）で行われる。  
ジュニアセッション（ポスターのみ），天文教育フォーラム，公開講演会も併せて開催する。
  4. 総会，理事会，評議員会，監査（定款第6章第29～43条に該当する事業）
    - 1) 総会  
正会員で組織され，事業計画・予算案/事業報告・決算報告などの重要事項を議決する通常総会を，春・秋季年会中に開催する。

- 2) 理事会  
15名の理事(理事長, 副理事長2名, 庶務理事2名, 会計理事2名, PASJ理事, 月報理事, 年会実行理事, 天文教育理事, 年会開催地理士4名: 各理事は任期2年の第2年目に当たる)から構成される理事会は, 本会の活動に関する諸問題の報告・議決を行い, 事業遂行・方針決定など組織の中心的な役割を担う。1月, 6月および春・秋季年会中に計四回の開催を予定する。
- 3) 評議員会  
20名の評議員(任期4年で半数の10名ずつ2年ごとに改選)から構成される評議員会は, 会員の投票による選挙(2011年に半数改選選挙)で選任された評議員により, 広い視野を持つ有識者としての会員の立場から, 本会の事業活動についての自由な議論が行われ, 各種の報告, 勧告, 議決が行われる。1月, 6月および春・秋季年会中に計四回の開催を予定する。
- 4) 監査  
2名の監事(任期2年の第2年目に当たる)が, 年度初めの1月に, 前年度の本会の財産状況と業務執行状況の報告(決算報告と事業報告)が適切かどうかの監査を行い, 3月の春季通常総会でその結果を報告する。
5. 各委員会(「日本天文学会委員会等に関する共通内規」に準拠する)  
本年度は16の委員会等を置き, 構成メンバーにより各種活動を行う。任期2年の第2年目に当たる。
  - 1) 欧文研究報告編集顧問: 10名
  - 2) 欧文研究報告編集委員会: 14名
  - 3) 天文月報編集委員会: 11名
  - 4) 年会実行委員会: 10名
  - 5) 天文教育委員会: 9名
  - 6) 選挙管理委員会: 5名
  - 7) 林忠四郎賞選考委員会(欧文研究報告論文賞の選考も兼ねる): 4名(理事長がEx Officioとして参加)
  - 8) 研究奨励賞選考委員会: 6名
  - 9) 天体発見賞選考委員会(天文功労賞の選考も兼ねる): 6名
  - 10) 内地留学奨学金選考委員会: 6名
  - 11) 早川幸男基金選考委員会: 5名
  - 12) ネットワーク委員会: 2名
  - 13) 天文教材委員会: 7名
  - 14) ジュニアセッション実行委員会: 6名
  - 15) 男女共同参画委員会: 6名
  - 16) 衛星設計コンテスト推進委員会: 4名
6. 日本天文学会各賞の授与(定款第2章第5条5項に該当する事業)
  - 1) 天体発見賞・天体発見功労賞  
新星, 超新星, 彗星など新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功労賞を授与する。
  - 2) 日本天文学会研究奨励賞  
特に顕著な研究成果を挙げた35歳以下の若手研究者(3名以内)に, 研究奨励賞を授与する。
  - 3) 日本天文学会 林忠四郎賞  
天文学の分野において, 独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究者に対して林忠四郎賞を授与する(1件)。
  - 4) 日本天文学会欧文研究報告論文賞  
日本天文学会欧文研究報告に掲載された論文の中から, 特に優れた論文の著者に対して欧文研究報告論文賞を授与する(2編以内)。
  - 5) 日本天文学会天文功労賞  
天体観測活動等によって, 天文学の進歩及び普及への顕著な寄与をした者に対して授与する(長期的業績1名, 短期的業績若干名)。
7. 助成制度(定款第2章第5条5, 7項に該当する事業)
  - 1) 内地留学奨学金により, 主にアマチュア天文研究者が日本国内の研究機関で短期間の研究をおこなうための経費を補助する。2011年度内に選考し若干名に奨学金を支給する。
  - 2) 早川幸男基金により, 年4回の申請受付を行い, 若手天文研究者の海外に於ける観測, 国際共同研究, あるいは研究発表のための渡航費または滞在費の援助を行う。
  - 3) 賛助会員会費を用いて(学術交流費), 大学院生等の年会(春秋)発表者の旅費補助をする。
8. 後援事業等(定款第2章第5条6項に該当する事業)  
他の学術団体などの天文関係諸企画に対して, 後援・協賛などを行う。
9. 各賞への候補者の推薦(定款第2章第5条5項に該当の事業)  
天文学会各賞以外の民間財団などからの, 研究助成および天文学に関連した賞の推薦に依頼に対して候補者を推薦する。
10. 事務所活動(定款第1章第2条に該当する活動)  
日本天文学会事務所(東京都三鷹市大沢, 国立天文台内)において, 事務長を含む常勤職員2名と約十名近くの非常勤職員が, (会員管理業務, 天文月報・欧文報告の編集作業, 年会の準備運営事務など) 本会の事業に関する実際的な業務を行う。

11. 理事長選挙（定款第4章第14条に該当する活動）  
2013-2014年度の理事長を選出する理事長選挙を行う。
12. 会員名簿の作成（定款第3章6条に該当する活動）  
会員名簿を作成し会員に配布する。発行部数3,000を予定する。
13. 新法人移行に向けた作業

現在特例社団法人である日本天文学会は、改正された新法人法の下では新たな法人組織に移行しなければならない。このため理事会が中心となって、評議員会や総会を通して広く収集した会員の意見も参考にしつつ、新たな定款や規則を策定するとともに関連機関への申請手続きを行い、次年度からの移行をめざす。

以上

【第2号議案】

日本天文学会 2012 年度収支予算書 (案)  
2012 年 1 月 1 日から 2012 年 12 月 31 日まで (単位: 円)

《一般会計》

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
①基本財産運用収入	50,000	55,000	△5,000	
基本財産利息収入	50,000	55,000	△5,000	
②特定資産運用収入	25,000	29,000	△4,000	
退職給付引当預金利息収入	1,000	5,000	△4,000	
減価償却引当預金利息収入	24,000	24,000	0	
③会費収入	39,659,000	39,490,000	169,000	
正会員会費収入	24,948,000	25,020,000	△72,000	
学生会員会費収入	4,693,000	4,394,000	299,000	
準会員会費収入	9,648,000	9,696,000	△48,000	
団体会員会費収入	370,000	380,000	△10,000	
④事業収入	28,856,000	33,187,500	△4,331,500	
・欧文事業収入	16,650,000	20,681,500	△4,031,500	
購読料収入	3,559,500	4,462,500	△903,000	
掲載料収入	10,143,000	14,119,000	△3,976,000	
別刷代収入	787,500	2,100,000	△1,312,500	
論文アクセス制限解除収入	2,160,000	0	2,160,000	
・月報事業収入	3,450,000	3,450,000	0	
購読料収入	600,000	600,000	0	
別刷代収入	750,000	750,000	0	
広告料収入	2,100,000	2,100,000	0	
・年会事業収入	8,326,000	8,326,000	0	
予稿集収入	1,576,000	1,576,000	0	
登録料収入	6,500,000	6,500,000	0	
年会雑収入	250,000	250,000	0	
・印税収入	230,000	530,000	△300,000	
星座早見印税収入	200,000	500,000	△300,000	
その他の印税収入	30,000	30,000	0	
・その他の事業収入	200,000	200,000	0	
普及物品頒布収入	200,000	200,000	0	
<b>事業活動収入計</b>	<b>77,840,000</b>	<b>82,398,500</b>	<b>△4,558,500</b>	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	59,581,225	65,186,748	△5,605,523	
・欧文事業費支出	29,271,225	34,501,748	△5,230,523	
直接印刷費支出	16,229,850	19,564,748	△3,334,898	
別刷印刷費支出	118,125	315,000	△196,875	
人件費支出	6,100,000	6,100,000	0	
謝金支出	4,787,250	6,640,000	△1,852,750	
送料運搬費支出	1,500,000	1,336,000	164,000	
消耗品費支出	160,000	170,000	△10,000	
雑支出	376,000	376,000	0	
・月報事業費支出	15,700,000	15,700,000	0	
直接出版費支出	8,700,000	8,700,000	0	
別刷印刷費支出	500,000	500,000	0	
人件費支出	1,300,000	1,300,000	0	
謝金支出	1,500,000	1,500,000	0	
送料運搬費支出	3,000,000	3,000,000	0	
消耗品費支出	600,000	600,000	0	
雑支出	100,000	100,000	0	

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
・年会事業費支出	9,725,000	9,750,000	△25,000	
予稿集印刷費支出	2,300,000	2,300,000	0	
人件費支出	1,300,000	1,300,000	0	
アルバイト経費支出	1,750,000	1,650,000	100,000	
会場費支出	2,375,000	2,800,000	△425,000	
旅費交通費支出	500,000	400,000	100,000	
送料運搬費支出	500,000	300,000	200,000	
消耗品費支出	300,000	300,000	0	
保育室運営経費支出	500,000	500,000	0	
雑支出	200,000	200,000	0	
・その他の事業費支出	4,885,000	5,235,000	△350,000	
天体発見賞等経費支出	900,000	900,000	0	
公開講演会諸経費支出	1,855,000	2,111,000	△256,000	
普及物品制作費支出	70,000	70,000	0	
衛星設計コンテスト支出	60,000	60,000	0	
ジュニアセッション経費支出	630,000	600,000	30,000	
天文教育フォーラム経費支出	370,000	344,000	26,000	
講師派遣プロジェクト支出	150,000	150,000	0	
広報活動経費支出	850,000	500,000	350,000	
世界天文年展示支出	0	500,000	△500,000	
②管理費支出	19,345,000	18,112,000	1,233,000	
給与手当支出	8,500,000	8,900,000	△400,000	
謝金支出	500,000	300,000	200,000	
法定福利費支出	1,350,000	1,350,000	0	
退職給付支出	0	0	0	
会議費支出	250,000	250,000	0	
旅費交通費支出	1,250,000	1,150,000	100,000	
送料通信費支出	900,000	900,000	0	
消耗什器備品費支出	400,000	250,000	150,000	
消耗品費支出	700,000	700,000	0	
修繕費支出	30,000	30,000	0	
印刷製本費支出	1,500,000	400,000	1,100,000	※注3
書籍購入費支出	5,000	2,000	3,000	
光熱水料費支出	300,000	300,000	0	
賃借料支出	2,200,000	2,200,000	0	
科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
保険料支出	15,000	15,000	0	
租税公課支出	500,000	500,000	0	
負担金支出	15,000	15,000	0	
諸手数料支出	430,000	350,000	80,000	
徴収不能額支出	100,000	100,000	0	
雑支出	400,000	400,000	0	
事業活動支出計	78,926,225	83,298,748	△4,372,523	
事業活動収支差額	△1,086,225	△900,248	△185,977	
II 投資活動収支の部				
投資活動収入				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出	453,200	453,200	0	
退職給付引当預金取得支出	429,200	429,200	0	
減価償却引当預金取得支出	24,000	24,000	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	
投資活動支出計	453,200	453,200	0	
投資活動収支差額	△453,200	△453,200	0	
III 財務活動収支の部				
財務活動収入				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	100,000	100,000	0	
当期収支差額	△1,639,425	△1,453,448	△185,977	
前期繰越収支差額	16,750,977	14,516,920	2,234,057	
次期繰越収支差額	15,111,552	13,063,472	2,048,080	

※注1 京都大学は公開講演会の科研費決定1,000,000円分

※注2 公認会計士への支払い分

※注3 2012年は名簿発行有りの為、増額

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている。予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。

《学術交流費会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで (単位: 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①会費収入	1,470,000	1,200,000	270,000	
賛助会員会費収入	1,470,000	1,200,000	270,000	
②雑収入	1,000	2,500	△1,500	
受取利息収入	1,000	2,500	△1,500	
<b>事業活動収入計</b>	<b>1,471,000</b>	<b>1,202,500</b>	<b>268,500</b>	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	1,465,000	1,196,500	268,500	
学術交流費支出	1,465,000	1,196,500	268,500	
②管理費支出	6,000	6,000	0	
雑支出	6,000	6,000	0	
<b>事業活動支出計</b>	<b>1,471,000</b>	<b>1,202,500</b>	<b>268,500</b>	
<b>事業活動収支差額</b>				
投資活動収支の部	0	0	0	
<b>II 投資活動収入</b>				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
<b>投資活動収支差額</b>				
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	3,958,137	3,770,630	187,507	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>3,958,137</b>	<b>3,770,630</b>	<b>187,507</b>	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている。予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度の当期収支差額を加えたものとなっている。

《内地留学奨学金基金会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで (単位: 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	10,000	5,000	5,000	
内地留学奨学金積立資産利息収入	10,000	5,000	5,000	
<b>事業活動収入計</b>	<b>10,000</b>	<b>5,000</b>	<b>5,000</b>	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	250,000	250,000	0	
内地留学奨学金支出	250,000	250,000	0	
②管理費支出	2,000	2,000	0	
雑支出	2,000	2,000	0	
<b>事業活動支出計</b>	<b>252,000</b>	<b>252,000</b>	<b>0</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△242,000</b>	<b>△247,000</b>	<b>5,000</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	242,000	247,000	△5,000	
内地留学奨学金積立資産取崩収入	242,000	247,000	△5,000	
<b>投資活動収入計</b>	<b>242,000</b>	<b>247,000</b>	<b>△5,000</b>	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
<b>投資活動収支差額</b>				
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている。予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。

## 《研究奨励賞基金会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入 研究奨励賞積立資産利息収入	1,000	1,000	0	
事業活動収入計	1,000	1,000	0	
2. 事業活動支出				
①事業費支出 研究奨励賞支出	300,000	300,000	0	
②管理費支出 旅費交通費支出 雑支出	80,000 50,000 30,000	80,000 50,000 30,000	0 0 0	
事業活動支出計	380,000	380,000	0	
事業活動収支差額	△379,000	△379,000	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入 研究奨励賞積立資産取崩収入	379,000	379,000	0	
投資活動収入計	379,000	379,000	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	379,000	379,000	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている。予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。

## 《早川幸男基金会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入 早川幸男基金積立資産利息収入	105,000	182,000	△77,000	
②寄付金収入 寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0	
事業活動収入計	1,105,000	1,182,000	△77,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出 早川幸男基金支出	2,700,000	2,700,000	0	
②管理費支出 雑支出	10,000	10,000	0	
事業活動支出計	2,710,000	2,710,000	0	
事業活動収支差額	△1,605,000	△1,528,000	△77,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入 早川幸男基金積立資産取崩収入	1,605,000	1,528,000	77,000	
投資活動収入計	1,605,000	1,528,000	77,000	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	1,605,000	1,528,000	77,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている。予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。



《林 忠四郎賞基金会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで (単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入	20,000	30,000	△10,000	
①特定資産運用収入	20,000	30,000	△10,000	林忠四郎賞積立資産利息収入
事業活動収入計	20,000	30,000	△10,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	300,000	300,000	0	
林忠四郎賞支出	300,000	300,000	0	
②管理費支出	120,000	120,000	0	
旅費交通費支出	60,000	100,000	△40,000	
雑支出	60,000	20,000	40,000	
事業活動支出計	420,000	420,000	0	
事業活動収支差額	△400,000	△390,000	△10,000	
II 投資活動収支の部				
投資活動収入				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	400,000	390,000	10,000	
林忠四郎賞積立資産取崩収入	400,000	390,000	10,000	
投資活動収入計	400,000	390,000	10,000	
投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	400,000	390,000	10,000	
III 財務活動収支の部				
財務活動収入				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている、予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。

《創立100周年記念出版事業基金会計》

2012年1月1日から2012年12月31日まで (単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	2,000	10,000	△8,000	
創立100周年記念出版事業積立資産利息収入	2,000	10,000	△8,000	
事業活動収入計	2,000	10,000	△8,000	
2. 事業活動支出				
①管理費支出	0	120,000	△120,000	
旅費交通費支出	0	100,000	△100,000	
雑支出	0	20,000	△20,000	
事業活動支出計	0	120,000	△120,000	
事業活動収支差額	2,000	△110,000	112,000	
II 投資活動収支の部				
投資活動収入				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	0	110,000	△110,000	
創立100周年記念出版事業積立資産取崩収入	0	110,000	△110,000	
投資活動収入計	0	110,000	△110,000	
投資活動支出				
①特定資産取得支出	2,000	0	2,000	
創立100周年記念出版事業積立資産取得支出	2,000	0	2,000	
投資活動支出計	2,000	0	2,000	
投資活動収支差額	△2,000	110,000	△112,000	
III 財務活動収支の部				
財務活動収入				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

\* 当会の予算案は、前年度の決算前に立案されている、予算案の前期繰越収支差額は、前々年度の決算額に前年度予算の当期収支差額を加えたものとなっている。

収支予算書総括表  
2012年1月1日から2012年12月31日まで (単位: 円)

科 目	一般会計	学術交流費 会計	内地留学奨学金 基金会計	研究奨励賞基金 会計	早川幸男基金 会計	林忠四郎賞基金 会計	創立100周年 記念出版事業 基金会計	内部取引 消去	合 計
<b>I 事業活動収支の部</b>									
1. 事業活動収入									
①基本財産運用収入	50,000	0	0	0	0	0	0	0	50,000
基本財産利息収入	50,000	0	0	0	0	0	0	0	50,000
②特定資産運用収入	25,000	0	10,000	1,000	105,000	20,000	2,000	0	163,000
退職給付引当預金利息収入	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
減価償却引当預金利息収入	24,000	0	0	0	0	0	0	0	24,000
内地留学奨学金積立資産利息収入	0	0	10,000	0	0	0	0	0	10,000
研究奨励賞積立資産利息収入	0	0	0	1,000	0	0	0	0	1,000
早川幸男基金積立資産利息収入	0	0	0	0	105,000	0	0	0	105,000
林忠四郎賞積立資産利息収入	0	0	0	0	0	20,000	0	0	20,000
創立100周年記念出版事業積立資産利息収入	0	0	0	0	0	0	2,000	0	2,000
③会費収入	39,659,000	1,470,000	0	0	0	0	0	0	41,129,000
正会員会費収入	24,948,000	0	0	0	0	0	0	0	24,948,000
学生会員会費収入	4,693,000	0	0	0	0	0	0	0	4,693,000
準会員会費収入	9,648,000	0	0	0	0	0	0	0	9,648,000
団体会員会費収入	370,000	0	0	0	0	0	0	0	370,000
賛助会員会費収入	0	1,470,000	0	0	0	0	0	0	1,470,000
④事業収入	28,856,000	0	0	0	0	0	0	0	28,856,000
欧文事業収入	16,650,000	0	0	0	0	0	0	0	16,650,000
月報事業収入	3,450,000	0	0	0	0	0	0	0	3,450,000
年会事業収入	8,326,000	0	0	0	0	0	0	0	8,326,000
印税収入	230,000	0	0	0	0	0	0	0	230,000
その他の事業収入	200,000	0	0	0	0	0	0	0	200,000
⑤補助金収入	8,700,000	0	0	0	0	0	0	0	8,700,000
国庫補助金収入	8,300,000	0	0	0	0	0	0	0	8,300,000
地方公共団体補助金収入	400,000	0	0	0	0	0	0	0	400,000
⑥寄付金収入	80,000	0	0	0	1,000,000	0	0	0	1,080,000
寄付金収入	80,000	0	0	0	1,000,000	0	0	0	1,080,000
⑦雑収入	470,000	1,000	0	0	0	0	0	0	471,000
受取利息収入	20,000	1,000	0	0	0	0	0	0	21,000
事務手数料収入	350,000	0	0	0	0	0	0	0	350,000
その他の収入	100,000	0	0	0	0	0	0	0	100,000
<b>事業活動収入計</b>	<b>77,840,000</b>	<b>1,471,000</b>	<b>10,000</b>	<b>1,000</b>	<b>1,105,000</b>	<b>20,000</b>	<b>2,000</b>		<b>80,449,000</b>



科 目	一般会計	学術交流費 会計	内地留学奨学金 基金会計	研究奨励賞基金 会計	早川幸男基金 会計	林忠四郎賞基金 会計	創立100周年 記念出版事業 基金会計	内部取引 消去	台 計
II 投資活動収支の部									
1. 投資活動収入	0	0	242,000	379,000	1,605,000	400,000	0		2,626,000
① 特定資産取崩収入	0	0	242,000	0	0	0	0		242,000
内地留学奨学金積立資産取崩収入	0	0	242,000	0	0	0	0		242,000
研究奨励賞積立資産取崩収入	0	0	0	379,000	0	0	0		379,000
早川幸男基金積立資産取崩収入	0	0	0	0	1,605,000	0	0		1,605,000
林忠四郎賞積立資産取崩収入	0	0	0	0	0	400,000	0		400,000
投資活動収入計	0	0	242,000	379,000	1,605,000	400,000	0		2,626,000
2. 投資活動支出	453,200	0	0	0	0	0	0		453,200
① 特定資産取得支出	429,200	0	0	0	0	0	0		429,200
退職給付引当預金取得支出	24,000	0	0	0	0	0	0		24,000
減価償却引当預金取得支出	0	0	0	0	0	0	2,000		2,000
創立100周年記念出版事業積立資産取得支出	0	0	0	0	0	0	2,000		2,000
投資活動支出計	453,200	0	0	0	0	0	2,000		455,200
投資活動収支差額	△453,200	0	242,000	379,000	1,605,000	400,000	△2,000		2,170,800
III 財務活動収支の部									
1. 財務活動収入	0	0	0	0	0	0	0		0
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0		0
2. 財務活動支出	0	0	0	0	0	0	0		0
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0		0
財務活動収支差額	100,000	0	0	0	0	0	0		100,000
IV 予備費支出	△1,639,425	0	0	0	0	0	0		△1,639,425
当期収支差額	16,750,977	3,958,137	0	0	0	0	0		20,709,114
前期繰越収支差額	15,111,552	3,958,137	0	0	0	0	0		19,069,689
次期繰越収支差額									

## 【第3号議案】

## 日本天文学会第19期評議員候補者名簿

任期 2012年1月1日から2015年12月31日

\*は現評議員（五十音順・敬称略）

家 正則\* 池内 了\* 市川幸平 犬塚修一郎  
佐藤勝彦\* 柴田一成 杉山 直\* 林 隆之  
林 正彦 観山正見\*

## 【理事会議事録】

日 時：2011年6月18日（土）13:00～18:00

場 所：八重洲ホール 612号室

出席理事：岡村，杉山，河合，本原，竹田，松尾，  
幸村，柏川，茂山，吉川，梅村，山田，  
太田，仲野（以上14名）

欠席理事：田代（以上1名）

また，半田年会担当幹事および宮下事務長が出席した。

## I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち，議長と署名人の確認がなされた。

議 長：岡村定矩

署名人：竹田洋一，本原顕太郎

I-2. 前回議事録の確認（資料1，本原）

資料1に基づき，前回（2011年3月17日）の理事会議事録が報告・確認された。

## II. 報告

II-1. 前回以降の新入・退会等会員の変動（資料2，本原）

2011年3月12日より2011年6月10日までの間の会員変動が報告された。新入会は正会員43名，準会員11名で，退会者は14名であった。

II-2. 東日本大震災の会費免除の人数等について（資料3，本原）

東日本大震災による会費免除申請状況が報告された。これまでに25名の免除申請を受理した。

II-3. 事業担当理事の近況

1. 天文月報（柏川）

新編集委員が作業に慣れてきて，原稿が集まるようになってきた。今後各種特集を組む予定であるので，楽しみにして欲しい。

2. PASJ（資料4，茂山）

- Suzaku 特集号の原稿が遅れたため，Suzaku，MAXI 特集号とした結果，かなり原稿が集まりつつある。はやぶさ特集号も進行中である。

- 外国人編集委員は2名に引き受けていただ

き，英語マニュアルを作って編集作業に参加していただいている。

- 近い将来 PASJ 校正担当に欠員が生じる予定で，その補充者を積極的に探す必要があることが指摘され，tennet と天文月報で推薦・募集を行うこととした。

- 現在，機関購読料は年間2万円あまりであるが，これは他誌にくらべ非常に低く，これを引き上げることを検討してゆくこととした。

3. 庶務（本原）

ネットワーク決済での年会講演登録料支払いの準備を進めている。詳細は後述。

4. 会計（資料11，松尾）

今年度5月31日までの収支計算が報告された。震災関連では，会費免除による減収が今年度分13万円（来年度分23万円），その他，年会キャンセルに伴う経費，公開講演会（筑波）および記者会見（三鷹）開催により，予算案と比較して収支が150万円ほど赤字となっている。

5. 天文教育（吉川）

秋季年会の公開講演会，および天文教育フォーラムの準備を進めている。また，講師派遣プログラムのwebページの再整備を進めている。

6. 年会（幸村）

東日本大震災の影響ため，秋季年会は鹿児島で開催することになった。秋季年会としては異例の4日間開催となる。現在，講演申込期間中である。今回から講演登録料は事前支払いとなり，支払い期限は6月26日に設定されている。なお，海外滞在者の支払いについては，ネットワーク決済の準備が間に合えばそれを使用してもらい，間に合わない場合には当日会場受付の支払いとする予定。

II-4. 事務所の近況報告（宮下，資料5）

現在11名が事務所で作業している。昨年退職した総務関係担当一名を補充するための募集作業を進めている。多数の応募があり，今後書類選考で人数を絞り，面接を行って最終決定する。また，事務所備付けの防災グッズ（ヘルメットなど）の購入を進めている。

II-5. 今後の年会の準備状況

1. 鹿児島大学（半田）

講演会場，ポスター会場，総会会場，公開講演会会場はすべて確保できた。懇親会は桜島フェリー船上で行う予定で，参加者300名を想定している。ネットワーク室も検討中で，具体的な運用方法を含めて，大学のネットワーク管理部

門と相談中。告知用 web は作成済みで、6月21日に公開予定。これら報告に対し、総会終了後懇親会会場までの移動時間が40分程度掛かることから、懇親会が行われる日の午後のスケジュールを十分に吟味する必要があることが指摘された。

2. 京都大学 (太田, 資料6)

龍谷大学での会場の確保は実質完了した。プラズマ宇宙物理三学会合同セッションがあるため、通常より多い10講演会場を確保してある。ポスター会場は小さめの部屋をたくさん用意することで対応する。予算は、ポスターボード100万円、アルバイト代80万円等を計上している。また、高校生合同進学説明会開催の打診があったが、おそらく可能である。懇親会は生協で開催する予定。公開講座と記者発表は会期前日の日曜日に京大時計台記念館で行う。こちらも会場は確保した。公開講座の予算は100万円程度であるが、科研費(100万円)が採択されたのでこれを利用する。

これに対し、三学会合同セッション参加者の講演登録料の支払いはどのようになるのかという質問が出され、事前支払いとなるので実際の手続きをどうするのかを検討する旨、幸村年会理事から説明された。また、そもそも三学会合同セッションの現状がどうなっているのかわからないため、それを調べる必要があるとの提案が出され、幸村年会理事が世話人の松元亮治氏に問い合わせることとした。

3. 大分大学 (仲野)

ポスターボードは裏表両面を使うこととして必要枚数は半分となり、レンタル代も80万円程度となった。その結果、予算総額は180万円程度である。講演会は9月22日を予定しているが、会場は未確定。大分コンパルホール(大分駅近くの文化ホール、500名収容)を想定しているものの、受付開始は1年前となる。これに対し、人的体制とそのサポートはどうするのかという質問が出され、学生アルバイトは確保できそうであるが、指示を行う人員の見通しが立っていないことが明らかにされた。九州周辺の学会関係者に日本天文学会から協力の依頼を出す必要があるのではないかと指摘があり、今後人選も含め検討してゆくこととした。

II-6. 春季年会の公開講演会及び記者発表について (河合, 資料7)

記者発表は6月13日に国立天文台・三鷹で行

い、4社が参加した。紙面掲載は日本経済新聞と毎日新聞の2社。公開講演会は7月3日に全国同時七夕講演会としてつくばで開催する。

II-7. クレジットカード決済サービスの導入について (本原, 資料8)

ネットワークからのクレジットカード決済サービスを提供する会社5社を検討した結果、非営利団体であれば初期費用、固定費用無しでwebページによる決済を提供している Another Lane 社と契約することとした。現在申し込み手続きを進めている。ただし、手数料5%が必要である。これに対し、このサービスは日本天文学会関連の払込全てに適用するのかという質問が出された。年会の講演登録料程度であれば問題ないものの、会費の場合は正会員で1,000円近くの手数料を学会側が負担する必要が出てくるため財政へのインパクトが非常に大きく、行うべきではないだろうとのコメントがあり、当面は年会講演登録料の支払いに限定することが確認された。

II-8. 公益法人移行相談会報告 (杉山, 資料9)

6月15日に杉山副理事長、松尾会計理事、本原庶務理事、宮下事務長の4名で品川の野村証券研修センターで行われた公益法人協会による内閣府受託「早期申請に向けた新公益法人制度の理解を深めるための相談会」に参加した。申請締切(平成25年11月)直前に申請を行って審査が通らないと法人解散になるため、できるだけ早期に移行申請を行うべきであることが明らかになった。平成25年1月公益法人移行を目指すべきだろう。新定款案については法的に問題ないことが確認できた。

II-9. 全国同時七夕講演会の現状 (河合)

6月17日時点で全75講演、95講演者。これに対し、京都教育委員会開催の講演が更に40程度追加されるはずであるとの指摘があった。

II-10. 巡回展報告 (半田)

2009年の世界天文年から開始された巡回展が2011年5月に終了した。推定来場者20万人、開催日数は424日であった。企画展としては好評な部類で、内容は難しいものの、興味深いという反応であった。展示物のうち、体験装置の大部分は仙台市天文台に、展示パネルは熊本博物館に引き取られ再利用される。残りの廃棄処理代金2万円程度を学会が負担した。

III. 議題

III-1. 2012年度事業計画書案 (本原, 資料10)

2012年度事業計画書案について本原庶務理事から説明があった。基本的に例年通りのものとなっている。これに対し、予算措置が必要なものは明記すべきであるということで、新理事長選挙、会員名簿作成についても記入すべきであるという意見が出され、そのようにすることとした。以上の議論を経て、2012年度事業計画案は承認された。

### III-2. 2012年度予算案（松尾、資料11）

2012年度予算案について松尾会計理事から説明があった。

#### ●一般会計

会費収入は、今年度当初の会員数で算出している。なお、東日本大震災による会費免除については申請分は考慮済み。PASJの収入は、特集号がないために減少しており、それに伴い同支出も減少。補助金収入はすでに確定したPASJと公開講演会関連の科研費を計上している。支出としては広報活動経費としてサーバアウトソーシング、webデザイン費を新たに計上した。公開講演会、ジュニアセッションの経費が増加してきている。また、管理費として旅費・交通費の支出が増加傾向。印刷費が大幅に増大しているがこれは会員名簿を発行するため。最終決算は164万円の赤字になっているが、これは過去と同程度。昨年度までの実績では実際の決算額は予算よりも大幅に減少するため、問題ないだろう。

#### ●特別会計

内地留学奨学金基金、研究奨励賞基金、林忠四郎賞基金については収入は利息のみ。

早川幸男基金は寄付収入を想定しており、現在の残額は4,700万円程度となっている。創立100周年記念出版事業基金会計は210万円程度残っており、その用途を公益法人化までに決めておかないといけない。これに対し、たとえば増補改訂版を出版するために残しておくのはどうか、電子化して公開する費用として残しておくのはどうか、30セットほど購入してどこかに寄付するのはどうか、などの意見が出された。

以上の議論を経て、2012年度予算案は承認された。

### III-3. 新法人移行への検討状況

#### ●新定款案（杉山、資料12）

新定款案について杉山副理事長から説明があった。これは、実務理事が5月27～28日、

2日間の合宿を行ってとりまとめたものである。最も大きな変化は、代議員制へ移行することである。これに伴い評議員会と、議決を行う現在の会員総会はなくなくなる。監事の職務は格段に重くなり、すべての理事会への出席が求められる。また、現在の「理事長」の名称は「会長」に変更される。また、これまでは1月開始だった会計年度を4月開始に変更する。これに対し、代議員の数（30名）が理事の数の上限（20名）の2倍以下であり、理事全員が代議員になってしまうと理事会と代議員会の独立性が確保できなくなってしまう可能性があるが問題ないか、という指摘があり、代議員の数については実務理事で再度検討することとした。また、現在の総会に相当するものを新法人移行後も何らかの形（仮称：「会員懇談会」）で行うべきであるが、それはどのようになるかを議論した。現在の総会は正会員のみの参加であるが、会員懇談会は全会員に門戸を開く。また、定款に明記してその位置づけを明確にすることとした。名称についてはさらに議論を行うこととした。以上の議論を経て、新定款案は承認された。

#### ●代議員選挙施行細則案（杉山、資料13）

杉山副理事長から代議員選挙施行細則案が説明された。基本的には立候補制であるが、それに加えて推薦委員会を作り、各種研究者団体からの推薦を受け付ける形となっているのがポイントである。これに対し、任意団体である研究者団体からの推薦という形は問題ないのか、という質問があり、そもそも立候補が保証されているので問題ない、いずれにしても細則には研究者団体を特定して記入すべきではない、などの意見が出された。以上の議論を経て、代議員選挙施行細則は承認された。

#### ●会長・副会長・理事・監事選考細則案（杉山、資料14）

杉山副理事長から会長・副会長・理事・監事選考細則案が説明された。まず「会長候補者」を正会員による選挙で選出し、その「会長候補者」が残りの理事会構成員の候補者を選任する。その候補者が総会で個別に承認されて理事会が発足した後、理事会内で会長を選出する、という手続きとなる。これは、理事会と総会の独立性を確保しないといけない法人法による縛りがあるためである。これに対

し、附則でいつの会長選挙から適用されるのかを明確しておかなければならないだろう、法人移行期間をどうするのが問題である、などの意見が出された。以上の議論を経て、会長・副会長・理事・監事選考細則案は承認された。

●会員区分の名称について（本原）

現在の「正会員」「準会員」の名称であるが、プロの研究者が多数準会員になっている問題があるため、新法人では準会員ではなく「アマチュア会員」としたいとの提案が本原庶務理事より出された。これに対し、とくに異論は出さず承認された。

なお、今後の新法人移行スケジュールであるが、秋季年会時の総会で新定款などの承認の決議を取る。その直後に内閣府に移行申請を出し、順調に行けば2012年4月より新法人移行となる。

\*注) 理事会当日は上記のような移行スケジュールを想定したが、後日問題点が指摘され、メールでの持ち回り審議の結果、「新法人移行スケジュールは秋季総会時に会員の意見収集を行い、春季総会で新定款などの承認、その直後に内閣府に移行申請を出し、順調に行けば2013年1月より新法人移行」と修正して理事会で承認した。

III-4. 年会終了後の開催地理事の役割について（岡村）

現在の制度では、年会開催終了後には開催地理事の仕事がなくなってしまう。そこで、年会終了後の開催地理事に特命理事として特定の作業を担当してもらいたいという提案が岡村理事長より出された。今回の場合、梅村・山田開催地理事に学会 web の整備の作業を河合副理事長とともにこなして欲しい。これは、現在15名しかいない理事の枠の有効活用という意味もある。これに対し、引継ぎが必要な長期の作業はやめたほうが良いだろう、という意見が出され、そのようにすることとした。以上の議論を経て、提案が承認された。

III-5. 韓国天文学会との協力について（河合、資料15, 16, 17）

國枝前理事長の時にキム韓国天文学会会長より年会の合同開催の提案があり、それに対していきなり年会を合同開催するのは難しいのでまずはジョイントセッションを行うという約束があった。具体的には、今秋の韓国天文学会年会

において、太陽に関するジョイントセッションを行うというもので、柴田一成氏が日本側から組織委員会に入る。日本天文学会に共催の申し入れがあり、公式に共催事業として承認する必要がある旨、河合副理事長より説明があった。これに対し、予算措置が必要かという質問があり、それは必要ないと説明された。逆に日本側で同様のジョイントセッションを行う事になるのかという質問が出され、将来的には考えており、来年度の秋季年会に開催する可能性もある、その場合は大分大学での開催となるので日本側の対応は大変になるかもしれない、LOCをちゃんと組織する必要があるだろう、という議論がなされた。以上の議論を経て、共催を承認した。

III-6. 年会実行委員（保育室担当）の交代について（幸村）

前任期後、後任者が見つからなかったため留任となっていた奥村幸子年会実行委員の後任として米倉覚則氏を承認した。

今回の理事会は日本天文学会秋季年会期間中に開催される予定である。

[資料リスト]

- 資料1 前回理事会(2011/3/17)議事録
- 資料2 前回以降の新入・退会等会員の変動
- 資料3 東日本大震災の会費免除の人数などについて
- 資料4 理事会資料(PASJ)
- 資料5 事務所の近況報告
- 資料6 2012年春季年会準備状況
- 資料7 春季年会の公開講演会および記者発表について
- 資料8 クレジットカード決済業者調査
- 資料9 新法人移行相談会メモ
- 資料10 2012年度事業計画書(案)
- 資料11 2012年度予算(案)
- 資料12 新定款(案)
- 資料13 代議員選挙施行細則(案)
- 資料14 会長・副会長・理事・監事選考細則(案)
- 資料15, 16, 17 韓国天文学会との協力について  
2011年7月11日

議長：岡村定矩 ㊤  
署名人：竹田洋一 ㊤  
署名人：本原顕太郎 ㊤



## 【評議員会議事録】

日 時：2011年7月9日（土）12:00～17:50

場 所：東京大学理学部1号館336号室

出席評議員：家，伊藤，井上，岡村，奥村，海部，  
坂田，佐藤，杉山，須藤，筒井，牧島，  
望月，山田，劉（以上15名）

欠席評議員：池内，谷口，嶺重，観山，渡部（以上5名）  
その他，河合副理事長，本原・竹田庶務理事，松尾・  
田代会計理事，宮下事務長が出席した。

なお，岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。

## I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち，出席者が15名で定足数を満たし，本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。

議 長：奥村幸子

署名人：須藤 靖，山田 亨

I-2. 前回2011年3月17日の評議員会議事録の確認が行われた。

## II. 報告

II-1. 理事会報告（本原，資料1）

本原庶務理事より，資料1に基づいて6月18日に行われた理事会の報告がなされた。

II-2. 事務所近況報告（宮下，資料2）

宮下事務長より事務所の近況が報告された。昨年退職した総務担当一名の補充の募集を出し，80名余りの応募があった。書類選考，面接を経て7月4日より一名を採用した。現在，常勤2名を含む11名が事務所で作業をしている。

II-3. 準会員の構成について（本原，資料3）

本原庶務理事より，準会員の中で「プロ」と考えられる会員の統計を調査した結果が報告された。（ここでいう『プロ』の定義は，所属が大学[ただし医学部等，高専，短大は除く]あるいは国立研究機関である，というものであり，誤差があることを考慮する必要がある）準会員1,178名中，上記のようなプロ準会員の数は308名（うち，在学中65名）であり，この数は正会員の15%以上になる。これら準会員が正会員にならない理由はたとえば，準会員でもtennetは配信される，研究機関所属であればPASJの電子版にアクセスできる，年会講演登録料は変わらない，などが考えられる。また，学生正会員には旅費補助のインセンティブがあるはずだが，大きな研究機関では研究費から学生旅費

を支給する例も多く，インセンティブになっていない，などの説明がなされた。更に，プロ準会員を正会員に誘導するインセンティブとして，準会員にはtennetを配信しない，準会員の年会講演登録料の値上げ，会員名称を準会員から別のものに変更する，キャンペーン活動（天文月報などへの意見広告など），準会員入会の審査を厳しくする（現在はほぼノーチェック）などの議論があったことが報告された。

II-4. 日本学術会議・IAU関連報告（海部，資料4）  
海部評議員より，IAUと学術会議の最近の状況について報告があった。

- IAUのアジア太平洋領域会議（APRIM2011）が2011/7/25～29にタイ・チェンマイで，北京総会が2012/8/20～30に中国・北京で行われる。

- IAUのPublic Outreach Coordinator (POC)のオフィスをアジア地区に設置する方針。当面は国立天文台内に設置し，POCを国際公募することを想定している。

- 先日米国議会上院予算委員会でキャンセルの答申が出たJWST計画についてはIAUでも議論しているが，格別の意思表示は行わない予定。ただし，予算の大幅なオーバーなどもあるので予算委員会の批判には応えなければならないが，今後の議会活動で復活もあり得る，という認識となっている。この問題については，日本天文学会としても何かできるか，考慮する余地はあるかもしれない。

- 日本学術会議会員及び連携会員の改選作業がほぼ終了し，7月11日の臨時総会で決定される。ただし，正式任命までは公表されない。

- 日本学術会議・大型計画分科会の報告書の一年目の小改訂が進行中。LCGT, ASTRO-H, B-Factory 高度化等の予算がついたので，理工工学系の大型計画は減るものの，文系や生命科学が増えて全体としては3計画増加し，67計画をリストアップする予定。それとは別に，天文学・宇宙物理学分科会は独自に，分野として重要で支援すべき中型計画のリストアップを計画し，現在各研究者団体に推薦を依頼している。各分野コミュニティでの議論が重要である。

など。

II-5. IAU報告（岡村，資料5）

- 次回IAU総会（北京）で，海部評議員が新会長に就任する。

- 新 IAU 会員の推薦を行う。前回は web で申し込む方式だったが、これが非常にうまく機能したので今回も同様な形にする予定。秋頃から開始する。
  - Division structure を変更することが検討されている。現在、Division I~XII に分野を分けている方式から、2 種類の Division 群（4 つの Cross-community Divisions と 5 つの Topical Divisions）の計 9 個に再編するという案が出されている。5 月に開催された日本学術会議の IAU 分科会で議論し、意見を IAU の執行委員会に伝えた。北京総会で議論される。
- II-6. 評議員選挙結果（本原、資料 6）  
 本原庶務理事より、6 月 21 日に開票された改選評議員選挙結果について報告された。投票総数は 208 通で、有効投票数は 1215 票であった。当選者は、杉山 直、家 正則、佐藤勝彦、観山正見、池内 了、林 隆之、市川幸平、林 正彦、柴田一成、犬塚修一郎（敬称略）の 10 名である。これに対し、当選したものの評議員会に出席しない評議員の存在が指摘され、日本天文学会の正会員としては選出されれば可能な限り出席する義務があるのではないかという問題提起がされた。これに対し、少なくとも評議員会の出欠を取る際にその旨伝える前書きをいれるという提案がなされ、次回からそのようにすることとした。また、新法人に移行後、代議員についても同様のことが発生する可能性も指摘され、今後も引き続き検討することとした。
- II-7. クレジットカードネット決済について（本原、資料 7）  
 クレジットカードを用いたネット決済サービスの整備状況が本原庶務理事より報告された。
- ネット決済サービスを提供している主要な 5 社の条件を比較した結果、手数料が 5% であるが、非営利法人の初期費用、月間固定費無料サービスを行っているアナザーレーン社と契約を行い、現在決済システムの構築を鈴木ネットワーク委員と進めている。次回の年会申込時より正式導入できる見通し。
  - このサービスを年会費納入に導入した場合、正会員で 1,000 円近くの手数料が必要になるが、その手数料を上乗せして請求することはクレジットカード会社との契約約款で禁止されているためできない。もしも全会員が利用した場合 200 万円近くの追加支出が必要となり、財政破綻するため、年会費支払いへの導入は現時点では考えていない。
  - それでも年会費支払いのネット決済への要望が非常に強い場合には、年会費を 1,000 円程度引き上げ、その代わりに現金振込や口座引落への割引制度を新たに設定するのが現実的であろう。
- II-8. 年会実行委員の任期途中の交代について（本原）  
 前任期後、後任者が見つからなかったため留任となっていた奥村幸子年会実行委員の後任として米倉覚則氏を理事会で承認したことが報告された。
- II-9. 国際学術団体との対応について（岡村、資料 12）  
 岡村評議員より、日本学術会議の国際委員会・国際対応戦略立案分科会からの意見照会についての報告があった。これは、日本学術会議が負担している国際学術団体への拠出金の予算が足りなくなってきたので、新たな負担方法を検討するための意見照会である。成り行きによっては IAU に拠出している年間約 600 万円の相応の割合を日本天文学会が分担する可能性がある。なお、この 600 万円という額は日本学術会議が負担する各種国際学術団体の中でも上位 4 位に入る高い額である。これに対し、IAU 会員は必ずしも日本天文学会会員ではなく、その負担を日本天文学会だけが担うのはいかなものか、しかし実際には日本天文学会員の多くが恩恵を受けている、IAU の分担金の額は基本的には会員数で決まるが交渉の余地もある複雑なものである、分担金を増やさないと国によっては IAU 会員数を抑えるようにしているところもある、一旦 IAU に入会してもその後天文学での活動のない方は会員から抜けてもらう、全体としてはこのような学術活動を国費だけでなく、民間組織や個人からの寄付でも支えてゆく体制作りが重要だ、などの議論がなされた。
- II-10. 宇宙開発戦略本部の専門調査会について（井上）  
 井上評議員より、宇宙開発戦略本部の専門調査会で、宇宙基本計画・宇宙開発体制の見直しの議論が進められていることが報告された。7 月いっぱいぐらいで報告書案がまとめられ、その後パブリックコメントが集められる方針と聞いているので、結果を注視して欲しい旨コメントがあった。

### III. 議題

#### III-1. 2012年度事業計画書(案)(本原, 資料8)

本原庶務理事より, 2012年度事業計画書案が説明された。2012年度は名簿の出版と理事長選挙を行う。また, 公益法人移行作業についても明記した。これに対し, 会員名簿は内容が空疎になってきているので紙版は出さずにウェブで(パスワードロックをかけて)閲覧できるようにするだけでいいのではないか, という意見が出されたが, 2010年度の名簿は十分に実用的である, ネットワークアクセスができない会員のため結局紙版は作る必要があり経費節減にはならない, などの議論が行われ, 紙版は計画通り発行することとした。

以上の議論を経て, 2012年度事業計画書案は承認された。

#### III-2. 2012年度予算書(案)(松尾, 資料9)

松尾会計理事より2012年度予算書案が説明された。

##### ●一般会計

会費収入は, 東日本大震災による会費免除があるため多少減少。PASJの収入は, 特集号がないために減少しているが, それに伴い同支出も減少。補助金収入はすでに確定したPASJと公開講演会関連の科研費を計上している。支出としては公開講演会, ジュニアセッションの経費が増加してきている。また, 管理費として旅費・交通費の支出が増加傾向。印刷費が大幅に増大しているがこれは会員名簿を発行するため。総収支は164万円の赤字になっているが, これは過去と同程度。昨年度までの実績では実際の決算額は予算よりも減少するため, 問題ないだろう。これに対し, 震災による会費免除が来年度あるのはどういう事かという質問が出され, これは震災前にすでに本年度会費を納めた会員への対応のためであると説明された。

##### ●特別会計

各種基金の中で, 早川幸男基金会計が突出して残高が多く, 4,700万円にも達している。また創立100周年記念出版事業基金は210万円程度の残額がある。これに対し, 早川基金ができた1990年代は学生が海外に研究で行くのが大変な時代であったが, それが変わってきているので, 寄付者の意思を曲げない範囲で新しい使い方を議論すべきではないか, 渡航費の援助だけでなく議論があって良いとい

う意見が出されたのに対し, 科研費が急減したり, 各種予算が削られたりした際のセーフティネットとして考える必要もある, という声もあった。これについては, 若手の会で学生の意見収集をすることとした。また, 現在の基金は数少ない個人の寄付に依存しているが, もう少し広く寄付を集めるシステムを考えるべきではないかという意見も出された。

##### ●その他

現在機関あたり年間2万円程度であるPASJのサイトライセンスの値上げを検討していることが松尾会計理事より報告された。これに対し, 海外機関はともかく, 国内だと正会員であれば読めるので機関購読を切られてしまうおそれがあることが指摘され, 慎重に検討をすすめることとした。

以上の議論を経て, 2012年度予算書案は承認された。

#### III-3. 秋季定期総会議題(案)(本原, 資料10)

秋季定期総会議題案が本原庶務理事より説明された。これに対し, 新定款などに対する意見収集を, 総会に出席しない会員からも積極的に行うべきであるという意見が出され, 投票ハガキ以外に理事会宛メールでも意見収集を行うこととした。以上の議論を経て, 秋季定期総会議題案は承認された。

#### III-4. 公益法人移行のスケジュールについて(杉山, 資料11)

杉山副理事長から, 公益法人移行スケジュールについて説明がなされた。まず, 公益法人協会による内閣府受託「早期申請に向けた新公益法人制度の理解を深めるための相談会」の報告が行われた。3万近くある法人のうち, 移行を完了させたものは現時点でまだ一割程度であり, 申請締切(2013年11月)直前に申請すると大変な時間がかかってしまい, 結果的に審査が通らないと法人解散になるため, できるだけ早期に移行申請を行うべきであるとの助言を受けた。理事会では2013年1月公益法人移行を目指して作業を行っている。2011年秋季定期総会で会員への説明をし, 2012年春季総会で承認を取って, その直後にその新定款を用いて申請を行う。これに対し, 移行申請時に新定款に初代会長名を明記するはずであるが, 現理事長の任期は切れており, そこをどうするのかについて質問があった。新理事長が決定されるのは2012年9月であり, 申請時の定款には書けないこと

から、理事会でどのように対応するか検討することとした。

### III-5. 新定款（案）について（杉山，資料 11）

杉山副理事長から新定款案の説明と質疑応答が行われた。新定款で最も大きな変更点は、

- 総会に 1/2 以上の議決権を有する社員の出席が必要となったので、正会員全員が出席する総会は事実上不可能であろう。そのため、代議員制度に移行する。これまでの総会は、会員全体集会（仮称）として別途開催する。
- 評議員を廃止する。
- 会計年度の開始日を 1 月 1 日から 4 月 1 日に変更する。

であることが説明され、その後定款の各条文の説明が詳細になされた。後述の細則も含め、およそ 3 時間半を要する作業となった。

特に、会員種別の名称は現状のままとし、正会員は「本会の目的に賛同し、運営に責任をもつ個人」、準会員は「本会の目的に賛同し、活動に協力する個人」とすることとし、プロ準会員の正会員への移行を促すキャンペーンを積極的に行っていくこととした。また、会員を通じて、現在の総会に代わる会員全体集会（仮称）の良い名称を募集することとした。

この作業の後、議論の結果を踏まえて修正した新定款案を秋季定期総会に提出し、会員の意見を収集することが承認された。

### III-6. 代議員選挙施行細則（案）について（杉山，資料 11）

杉山副理事長より、代議員選挙施行細則案の説明がなされた。法人法により、すべての正会員に被選挙権があり立候補する権利を保障する必要があるが、立候補だけでは必要な候補者数（半数改選で 17 名程度以上）に達しない可能性が高いため、各研究者団体からの推薦されたメンバーによる推薦委員会を設けるという案である。これに対し、そもそも推薦を受ける研究者団体をどう決めうるのか、そんなことをしたら研究分野間の緊張を高めるのではないかと、そもそも推薦という制度をしなくとも今のやり方で問題ないのではないかと、新制度では今はない立候補というシステムになるので立候補した候補に票が集中するのを避けるためにも推薦枠も必要である、などの議論がなされた。これらの議論を受け、最終的に (1) 推薦委員会は、代議員からなる総会が、代議員以外から選出し (2) 推薦委員会はあらゆる団体・個人等から候補者の

推薦を受け付け、それを基に被推薦候補者名簿を作成し、選挙管理委員会に報告する。(3) 選挙管理委員会は、会員からの立候補を受け付け、推薦委員会から報告された被推薦候補者リストと立候補者リストをあわせて、有権者名簿とともに会員に通知する、という手続きとすることで合意した。以上の議論を踏まえて修正した代議員選挙施行細則案を秋季定期総会に提出し、会員の意見を収集することが承認された。

### III-7. 会長・副会長・理事・監事選考細則（案）（杉山，資料 11）

杉山副理事長より、会長・副会長・理事・監事選考細則案の説明がなされた。法人法により、理事会メンバーは総会で個人ごとに承認を受けるが、理事会と総会の独立性を担保するために会長は理事会内で選任する必要がある。これに対して、現状の理事長公選制度を可能なかぎり残すため、正会員による選挙で会長候補者をまず選出し、その会長候補者が他の理事及び監事を総会に提案して承認を受け、それを受けて発足した理事会が会長を正式に選出するという手続きとなっている。会長・副会長・理事・監事選考細則案を秋季定期総会に提出し、会員の意見を収集することが承認された。

今回の評議員会は、2011 年 9 月 20 日の秋季年会期間中に鹿児島大学で開催される予定である。

#### [資料リスト]

- 資料 1 前回理事会議事録
- 資料 2 事務所近況報告
- 資料 3 準会員の現状について
- 資料 4 IAU/日本学術会議関連報告
- 資料 5 IAU 報告
- 資料 6 評議員選挙結果
- 資料 7 クレジットカードによる Web 決済について
- 資料 8 日本天文学会 2012 年度事業計画書（案）
- 資料 9 日本天文学会 2012 年度収支予算書（案）
- 資料 10 2011 年度秋季定期総会議題（案）
- 資料 11 新法人移行関連資料（スケジュール、定款改訂案の骨子、新定款案、代議員選挙施行細則、会長・副会長・理事・監事選考細則）
- 資料 12 国際学術団体との対応について

2011 年 7 月 26 日

議長：奥村幸子 ㊟  
署名人：須藤 靖 ㊟  
署名人：山田 亨 ㊟

## 2011年度日本天文学会 林 忠四郎賞受賞候補者および欧文研究報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

林 忠四郎賞選考委員会

標記の二つの賞について、受賞候補者と論文の推薦をお願いします。締切は両賞とも2011年11月10日(木)(必着)です。下に述べるそれぞれの要領に従って記入した推薦書を、〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会宛に郵送して下さい(論文賞についてはe-mailも可)。なお、封筒には「林 忠四郎賞候補推薦書」または「欧文研究報告論文賞候補推薦書」と表記して下さい。特に返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞とも本会年会の春季通常総会にて行う予定です。

### 2011年度(第16回)林 忠四郎賞推薦要

この賞は、林 忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等: 広い意味での天文学(天体物理学, 宇宙物理学, 他の関連テーマも含む)における独創的であった分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

授賞件数: 原則として各年に1件。

賞状等: 本賞として賞状, 副賞として賞牌(メダル)および賞金(30万円)。

推薦書の形式: 表題は「2011年度林 忠四郎賞候補者推薦書」としてください。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者(被推薦者, 連名授賞可)について: 氏名(ふりがな), 生年月日, 大学卒業年, 現職および連絡先(電話, Fax, e-mail)
- 2) 授賞対象とする研究の表題(英語表記も)
- 3) 推薦者について: 氏名(ふりがな), 現職, 連絡先(電話, Fax, e-mail), 被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨(300字以内)
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として, 推薦に関連して最も重要な論文のコピー(3編以内)

### 2011年度(第16回)欧文研究報告論文賞推薦要領

この賞は、良い論文がPublications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林 忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等: 原則として過去5年以内にPublications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者(共著の場合はすべての各共著者)に授与する。

授賞件数等: 原則として1年に2件以内。賞状と副賞を授与する。

推薦書の形式: 表題は「2011年度欧文研究報告論文賞候補推薦書」として下さい。A4サイズの用紙(e-mailでも可)に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について: 論文題目, 筆頭著者名, 出版された巻, ページ, 発行年
- 2) 推薦理由(1,000字程度)
- 3) 推薦者について: 氏名(ふりがな), 現職・連絡先(電話, Fax, e-mail), 被推薦者との関係
- 4) e-mailで応募する場合はjim@asj.or.jp宛に出して、受領した返事を必ずもらってください。

### 2011年度研究奨励賞(第23回)受賞候補者推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を上げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近5年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日(本年度は2011年1月1日)で35歳以下の者であって、毎年3名以内を対象とし、賞状、賞牌(メダル)および賞金(10万円)を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。
  - (1) 締切: 2011年11月10日(木)必着
  - (2) 提出書類: ○候補者氏名, 現職, 生年月日, ○授賞対象とする研究の表題(英語表記も), ○推薦者の氏名, 現職, 連絡先,

- 推薦理由 (300 文字程度の要旨と A4 で 2-3 枚程度の本文), ○関連論文リスト,
- 推薦に関連して最も重要な論文のコピー (3 編以内)

(3) 提出先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台内

日本天文学会研究奨励賞選考委員会

選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。

### 2011 年度 (第 11 回) 天文功労賞候補者推薦のお願い

天体発見賞選考委員会

この賞は、近年多岐にわたっている研究機関外での天文活動、例えば長年の天体観測や、突発的な現象の検出や的確な通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠外となっている天文観測・研究活動全般です。対象者は、「天文研究を主たる業務としない」個人および団体で、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、候補者を評議員会に推薦します。

天文学会の会員の方々からの候補者 (団体) 推薦を、広く募集します。A4 紙 1 枚程度で、候補者 (団体) 名、功績名 (1 行程度)、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所 (〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内/Fax: 0422-31-5487/jimu@asj.or.

jp) お送りください。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。

推薦は随時受け付けておりますが、今回の選考に確実に乗せるには、2011 年 12 月 31 日までに送りいただくようお願いいたします。なにとぞ多数のご推薦をよろしくお願いいたします。

### PASJ 論文編集校正者募集

PASJ では出版が決まった論文の編集校正をしてくださる方を募集しています。

単語の使い方、句読点、原稿全体の体裁等を PASJ の規定に沿って校正編集していただきます。作業は在宅で結構ですが、月に数回、原稿の受け渡しなどで天文学会事務所 (三鷹) に来ていただく必要があります。応募条件:

天文学の知識 (大学院修士課程レベル) がある  
英文科学雑誌に論文を投稿し掲載された経験がある  
読み書きや調べ物が苦手でない

報酬:

頁あたりの出来高払い

その他、詳細につきましては PASJ 編集部へお問い合わせください。

(社)日本天文学会

PASJ 編集部

TEL: 0422-31-5488

FAX: 0422-31-5487

E-mail: office@pasj.asj.or.jp

天文月報オンライン/投稿用アップローダーの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

柏川伸成(編集長), 市来浄與, 勝川行雄, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 廣田朋也, 前野将太, 山崎 了

平成 23 年 8 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2011 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)